

受領No. 1565

人口再生産力とコミュニティ機能にかんする日中比較 —グローバル経済下で高出生率の地域を維持できるか—

代表研究者	関 耕平	島根大学	法文学部	教授
共同研究者	宮本 恭子	島根大学	法文学部	教授
	藤本 晴久	島根大学	法文学部	准教授
	田 阡	西南大学 (中国)	歴史文化学院	教授
	傅 来友	西南大学 (中国)	歴史文化学院	講師
	蘭 剣	西南大学 (中国)	国家治理学院	副教授



A Comparative Study on Reproductivity and Community Functioning in Japan and China: Can Regions with High Fertility Survive in the Global Economy?

Representative	Kohei SEKI, Shimane University, Faculty of Law & Literature, Professor
Collaborator	Kyoko MIYAMOTO, Shimane University, Faculty of Law & Literature, Professor Haruhisa FUJIMOTO, Shimane University, Faculty of Law & Literature, Associate Professor TIAN Qian, Southwest University(China), School of History & Culture, Professor FU Laiyou, Southwest University(China), School of History & Culture, Lecturer LAN Jian, Southwest University(China), College of State Governance, Associate Professor

研究概要

本研究は、なぜ条件不利地域ほど高い出生率を保っているのか、コミュニティの機能を中心にその内的論理を明らかにするとともに、科学技術とグローバル経済の進展による均一化圧力を受け、地域コミュニティや住民の社会意識が変容してもなお高い出生率の地域を維持できるのか、解明する。

日本の農山村は深刻な人口減少に直面しているが、自然動態に着目すると、むしろ出生率が高水準にある。都市部の出生率低下と農山村部の高出生率という傾向は世界共通であり、例えば、中国の少数民族社会でも高い出生率となっている。この要因について、地域コミュニティにおける「共同性」(子育ての社会化)などが指摘されてきたが、定性的で論理的な回答は未だ得られていない。

本研究では、地域社会における「共同性」が維持されることで「子育ての社会化」がコミュニティの機能として成立していることが高出生率のカギを握っているのではないかと仮説をもとに、日本(島根県の中山間地域および離島)と中国の条件不利地域(四川省・雲南省少数民族地域)を対象に、住民の社会意識に対する分析と、インタビュー調査など定性的アプローチを掛け合わせることで、高い出生率とその要因を、コミュニティの機能に注目しながら国際比較に基づき明らかにする。